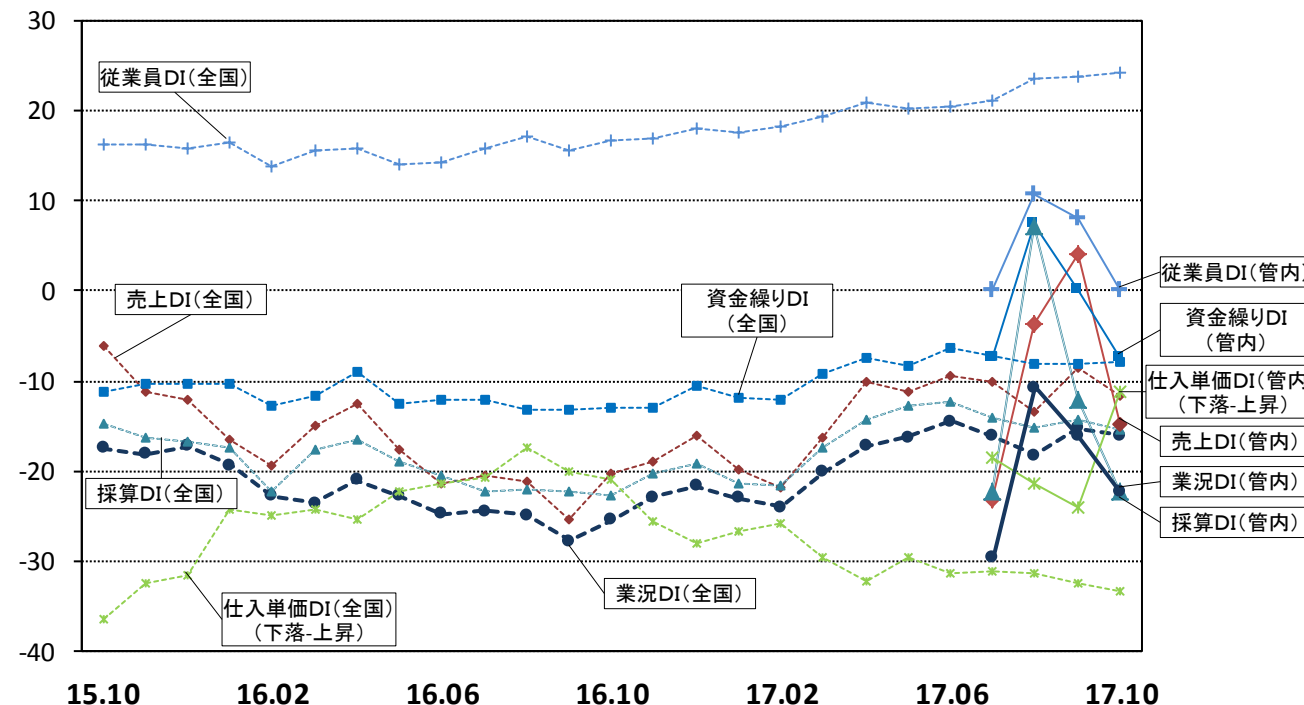


### 業況DIは、ほぼ横ばい。先行きは慎重な見方残るも、緩やかな回復を見込む(全国)

#### ポイント

- ▶【全国】10月の全産業合計の業況DIは、▲16.0と、前月から▲0.7ポイントのほぼ横ばい。電子部品、自動車、産業用機械関連の生産や、インバウンドを含む観光需要が引き続き堅調に推移した。他方、公共工事の一般感を指摘する声が聞かれたほか、長雨などの天候不順による客足減少、人手不足の影響拡大、運送費・原材料費の上昇、消費者の低価格志向を指摘する声も多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復基調が続いているものの、そのマインドには依然として鈍さが見られ、足元でほぼ横ばいの動きとなっている。
- ▶【全国】先行きについては、先行き見通しDIが▲14.1(今月比+1.9ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。輸出や設備投資の堅調な推移や株高進行による個人消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大などへの期待感がうかがえる。他方、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の影響の深刻化、運送費・原材料費の上昇などを懸念する声も多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方が残っている。
- ▶【管内】10月の全産業の業況DIは、▲22.2と、2カ月連続で前月を下回った。見通しは、▲7.7(今月比14.5ポイント)と回復を見込む。

### LOBO全産業合計の各DIの推移(2015年10月以降)



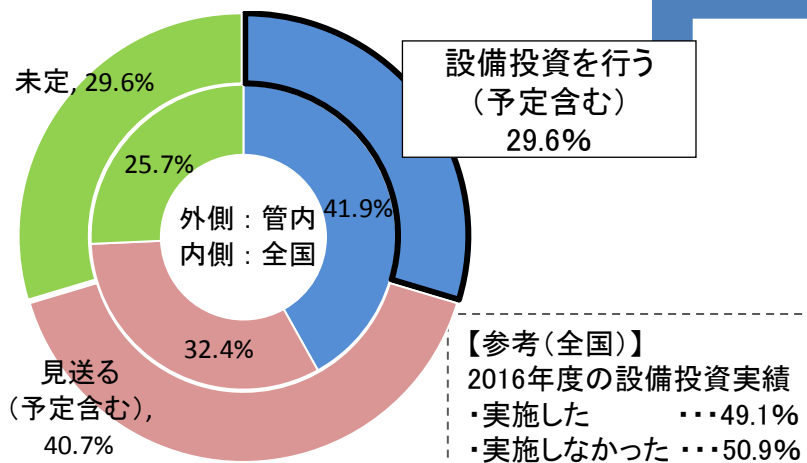
### 2017年度の設備投資動向(管内)

- ▶ 2017年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は29.6%と、「見送る(予定含む)」の40.7%に比べ、11.1ポイント低位。また、29.6%の企業は「未定」と回答。
- ▶ 設備投資の内容は、国内で「新規設備投資・既存設備改修(設備性能の向上を伴う)」が62.5%、「既存設備の維持・定期更新」は37.5%であった。
- ▶ 設備投資を見送る(未定含む)理由は、「今後の経済状況が不透明なため」、「業績の改善がみられないため(見込み含む)」がともに47.4%となった。他方、新規設備投資を実施・積極化する条件は、「業績の改善(見込み含む)」が70.4%であった。

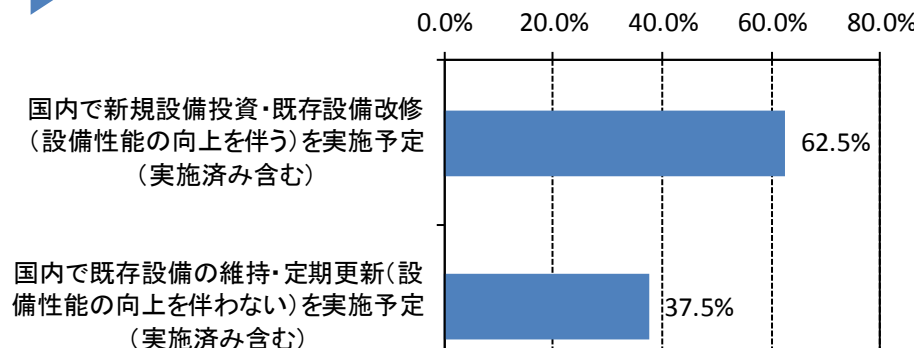
#### [中小企業の声]

- ▶ 労働集約の業態であるため、設備投資は定期的に行っていない。人の確保が優先される。景況見通しについては半年後があまり見えない状況なので、予断を許さない。(建設業)
- ▶ 価格の下落等により、設備資金がたくわえられない。(製造業)
- ▶ 長期不況下、空調設備が古くなり、修理不能となった。一工場分だけエアコンを更新し、同時に省エネを計った。今年の経済の回復をみて、製造設備は順次更新を図りたい。(製造業)

### ◆2017年度の設備投資動向について



### <2017年度における設備投資の内容>【複数回答】



### <設備投資を見送る(未定含む)理由>【複数回答・上位6項目】

今後の経済状況が不透明なため	47.4%
業績の改善がみられないため(見込み含む)	47.4%
現状の設備が適正水準であるため	31.6%
資金調達(返済含む)が困難なため	21.1%
レンタルやリースなど外注を活用するため	21.1%
経営上の課題として設備投資より優先する事項(賃上げなど)があるため	21.1%

※設備投資を見送る(予定含む)・未定の企業の回答

### <新規設備投資を実施・積極化する条件>【複数回答・上位5項目】

業績の改善(見込み含む)	70.4%
今後の日本経済回復への期待	22.2%
資金調達の円滑化(金融機関からの借入・返済等)	22.2%
税制面での優遇措置拡充(機械等の投資減税拡充・固定資産税減免等)	11.1%
設備投資コストの下落	11.1%

※全企業の回答